



令和 6 年能登半島地震 災害復旧支援（穴水町）報告

令和 7 年 1 月 28 日（金）
穴水町地域整備課

朝田 敏裕

— 目次 —

- 1 石川県穴水町の概要
- 2 石川県穴水町の被災状況
- 3 発災からの経過
- 4 災害復旧の概要
- 5 復旧に当たっての課題

1 穴水町の概要



町名	穴水町	南伊豆町
人口	7,574人	7,726人
面積	約183km ²	約110km ²

※ R5.1.1

- ・「のと里山海道」や「のと鉄道」の終点
 - ・「のと里山空港」から約20分（車）
 - ・静岡市から約500km

1 穴水町の概要

《穴水町役場》

総務課
環境安全課
税務課
住民福祉課
観光交流課
地域整備課
会計課
子育て健康課
上下水道課

◆地域整備課について

一 業務内容

水産関係、土木、農政、林務、住宅

一 人員

役場職員：15名（内、技術職：課長補佐1名）
派遣職員：28名

（土木9名、都市計画3名、農業土木9名、
林業3名、建築4名）

◎土木班職員の派遣元

新潟県長岡市、岐阜県瑞浪市、愛知県春日井市、
静岡県、福岡県、熊本県



2 穴水町の被災状況

最大震度 6 強

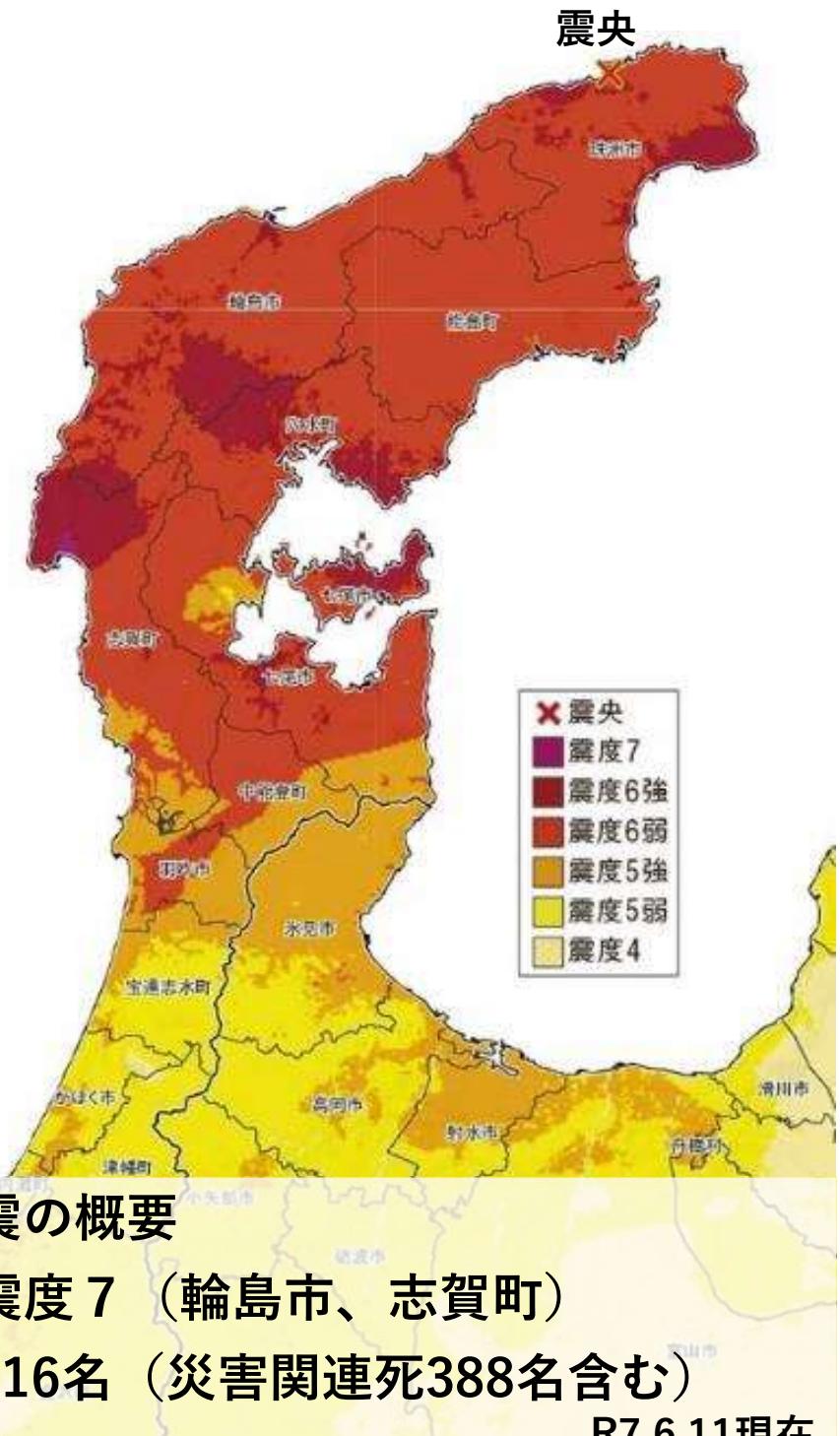
《人的被害》

死者 47名（関連死27名含む）

《土木關係（查定額）》

河川	14件	5,888,790千円
道路 (路面災含む)	53件	10,265,788千円
橋梁	13件	3,527,715千円
漁港	27件	4,547,570千円
港湾	5件	737,374千円
合計	112件	24,967,237千円

※豪雨災害を含む



2 穴水町の被災状況



2 穴水町の被災状況



3 発災からの経過

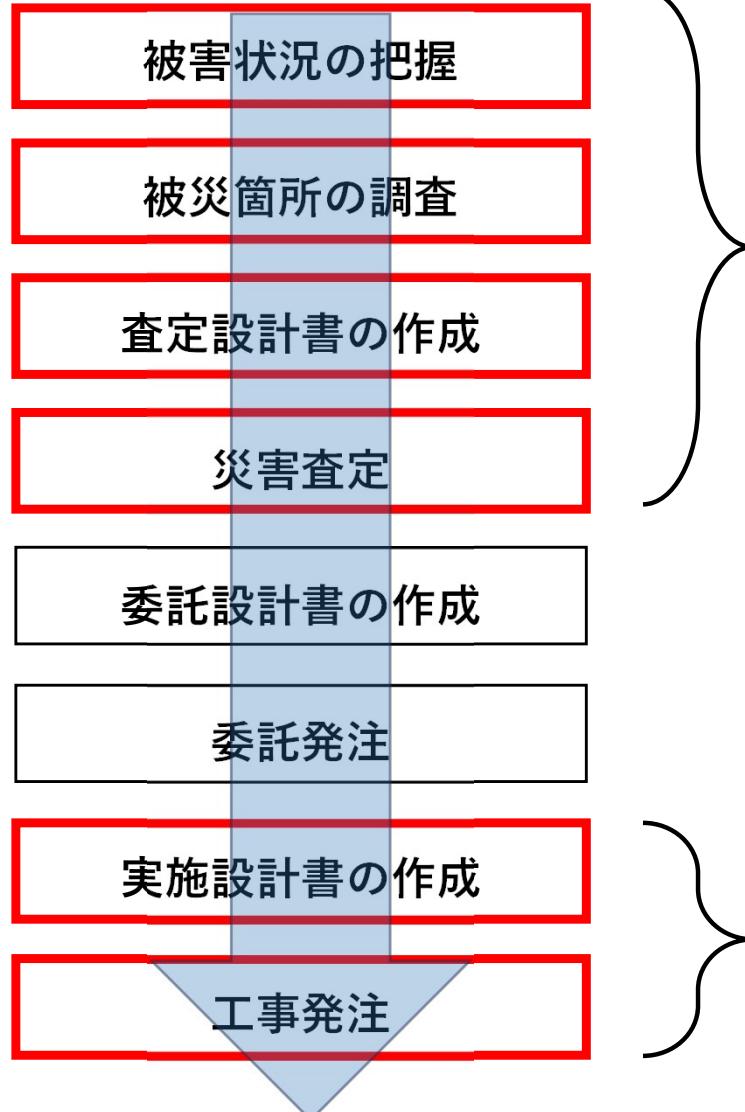
令和6年1月～令和6年3月

被害状況の把握	年月日	事象、事項	対応内容、懸案事項
被災箇所の調査	R6.1月1日	能登半島地震発生	<ul style="list-style-type: none">・土木、農業土木に対応する担当職員は3名（うち1名は管理職）
査定設計書の作成	R6.1月	災害発生当初の混乱期 土木災害への対応	<ul style="list-style-type: none">・土木災害の調査や応急復旧対応・農林災害の対応は人員不足のため後回し・自宅に2日ほどしか帰れず・短期応援職員とともに現地調査を実施
災害査定			
委託設計書の作成			
委託発注	R6.2月中旬	農林災害への対応	<ul style="list-style-type: none">・農林災害の調査や応急復旧対応・現地調査や地元耕作者への聞き取りから災害箇所の特定
実施設計書の作成			
工事発注	R6.3月	土木災害・農林災害の応急復旧	<ul style="list-style-type: none">・施工業者による応急復旧工事を開始

短期応援職員は応援協定締結市町であった。
(長野県宮田村、岐阜県八百津町、山梨県南アルプス市)

3 発災からの経過

令和6年4月～令和7年3月



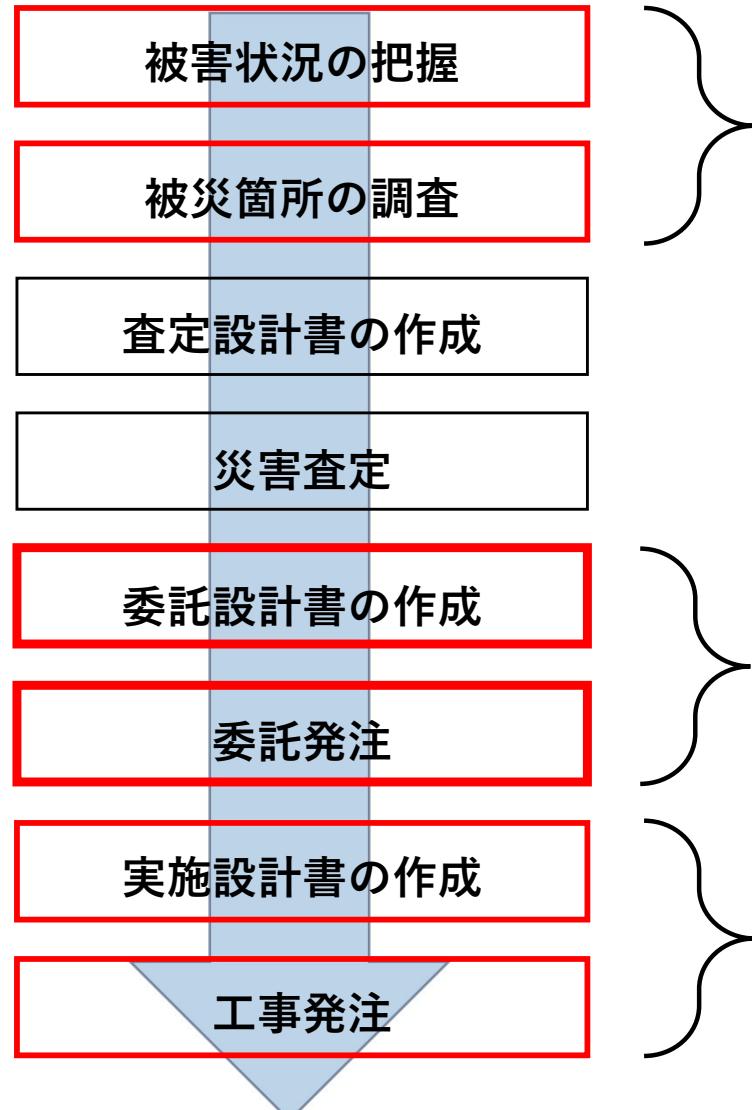
令和6年5月～12月にすべての査定を完了

令和6年9月～ 工事発注（路面災のみ）
※早いものは9月中旬に契約したが準備工+起工測量で約2か月を要した結果、12月からの降雪期と重なり、工事中断を余儀なくされた。

令和7年3月末時点で21件の工事を発注

3 発災からの経過

令和7年4月～



申請区間内において調査不可能として処理された箇所の把握&調査
「被災の事実を説明する資料」を作成し、国交省防災課と協議ののち⇒追加ができる

令和7年2月～ 委託発注

令和6年度に応急調査業務要請書にて依頼済の委託箇所を随時発注
簡易図面での査定のため、詳細設計業務が全く出来ておらず、ほとんどの箇所が第1回打合せからのスタート

令和7年3月末時点で工事発注済の路面災21件の工事を進捗させ、うち11件完成（6月末時点）

以後、査定済かつ詳細設計完了済の箇所を随時発注する予定

4 災害復旧の概要 (道路・河川・橋梁・港湾・漁港)

穴水町 震災復旧・復興 関係施設マップ



■穴水町 管理道路

346路線 総延長245km

«主な町道路線の特徴»

- ・国道249号や主要県道から各集落や漁港・農地へのアクセス道として機能している。
- ・市街地では、都市計画により碁盤上に区画して住みやすい街の機能を確保している。
- ・町北部では、山間部を縦断する幹線と櫛の歯状に各沿岸へアクセスする路線を整備。
- ・利用されない町道路線については、維持管理の縮小や廃道も視野に考えている。

道路災 査定決定額
10,265,788千円

■地震被害の全体像と被害の特徴

全体像：被害延長60km（25%）、被害額 150億円（町の年間建設予算：11億円）

特徴①：地震動による道路の谷側崩落、山腹崩壊、橋梁破損（約100件、10km、100億円）

特徴②：地震動による舗装のクラック、路体の崩壊や沈下（約100件、50km、50億円）

■求められている早期復旧と地域の復興

地震発生後、孤立集落が多数生じ、道路啓開及び緊急舗装により通行路を確保した。

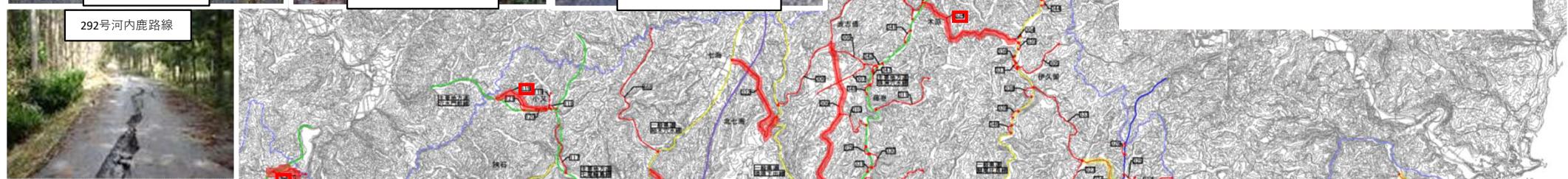
現在は、仮舗装の状態で町内全域の移動ができるように通行路を確保しているが、穴水町では仮設住宅への入居が進み、ようやく町民の生活基盤が確保できたことで、復興に向けて町全体で取組み始めたところ。

町道の被害は甚大であり、今後の雨や路面損傷による劣化などにより、被害拡大が想定されることから、地震からの復興を減速させないよう、早急な本復旧が必要となっている。

■災害復旧事業への申請方針

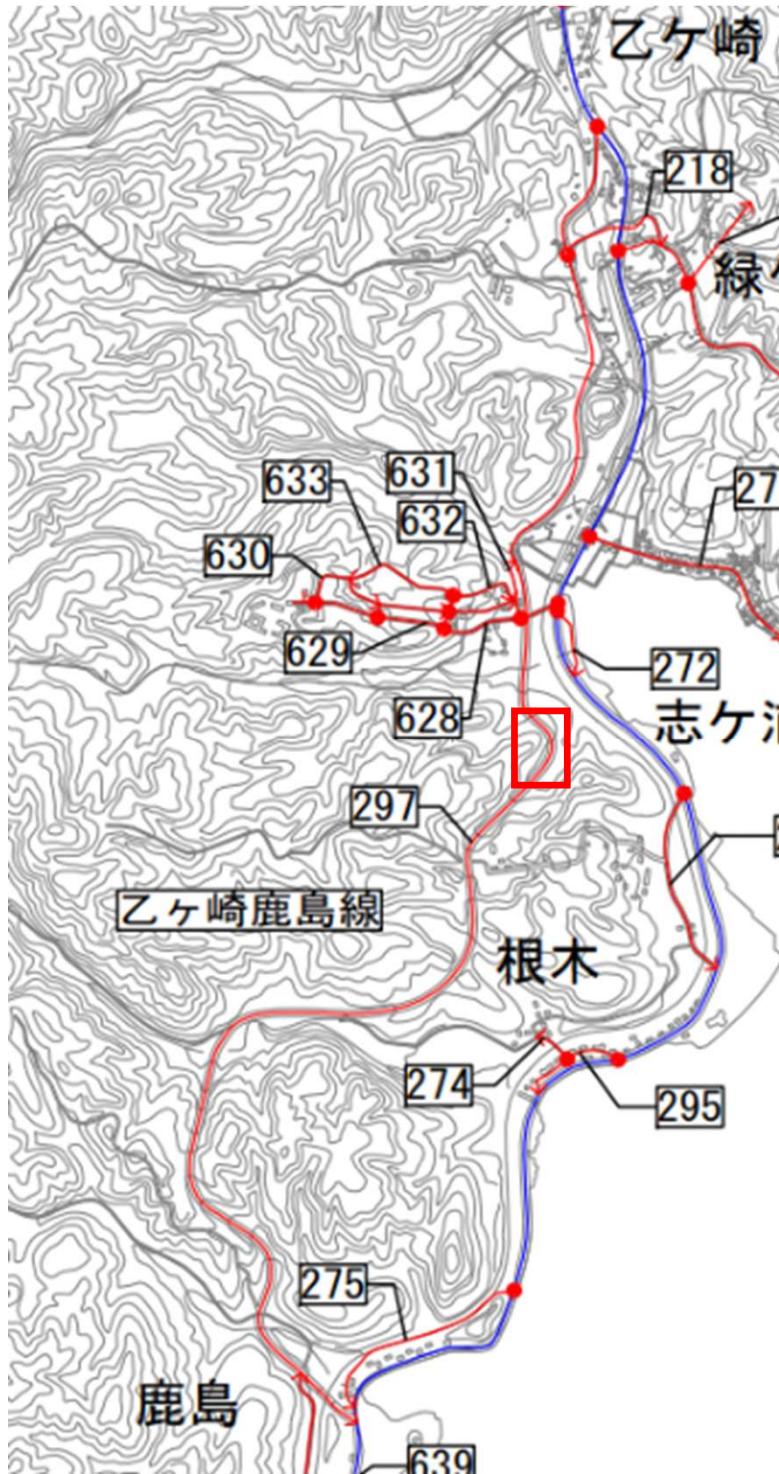
- ①道路路面及び路側の水路や小規模構造物被害については、「簡素化」を適用し、概算数量発注方式（穴水町の定める実施要領）により工事発注するため、図面作成費等を諸経費に計上して申請する。
- ②路体の崩壊・液状化による沈下・山腹崩壊等に伴い、構造物の配置・構造検討、法面保護等が必要となる場合も、「簡素化」を適用して災害査定を受けるよう申請する。
なお、詳細調査・設計の費用については、査定時に申請する災害復旧費に含める（激甚指定済）

穴水町 道路災害概要（主要被害位置図と復旧優先度）



407号 由比ヶ丘 3号線

297乙ヶ崎鹿島線



■穴水町 管理河川

29河川 総延長45km

«主な河川の特徴»

町の主要産業である農業(主に稻作)のためにほとんどの用水を河川から取水しており、堤防・護岸の損傷は営農に直結しているため、地域住民の協力もあり、河川に対する監視が行き届いている。

■地震被害の全体像と被害の特徴

全体像: 29河川中 **16河川 被害延長2.6km(5.8%)、被害額 21億円**(町の年間建設予算: 11億円)

特徴①: 地震動による堀込河道の護岸転倒、はらみ出し、崩壊(主に護岸天端や河岸高中央付近でのクラック等)

特徴②: 地震動による土堤のすべり(縦断クラック)

特徴③: 河岸や背後地の山腹崩壊による土砂・倒木の堆積による河積阻害

■求められている早期復旧と地域の復興

地震発生後、河川では山腹崩壊等による土砂堆積の解消に努めてきた。河川施設被害の大半は地震動による護岸等の変状であり、堤防の形状を保っているところが多く、緊急復旧が必要な場所はない。

穴水町では仮設住宅への入居が進み、ようやく町民の生活基盤が確保できたことで、復興に向けて町全体で取組み始めたところ。

農地では、河川からの灌漑用水が主体となっており、稻作作付け時期までの早急な用水確保が求められている。

町河川の被害は甚大であり、今後の雨・洪水や損傷の劣化などにより、被害拡大が想定されることから、

地震からの復興を減速させないよう、早急な本復旧が必要となっている。

■災害復旧事業への申請方針

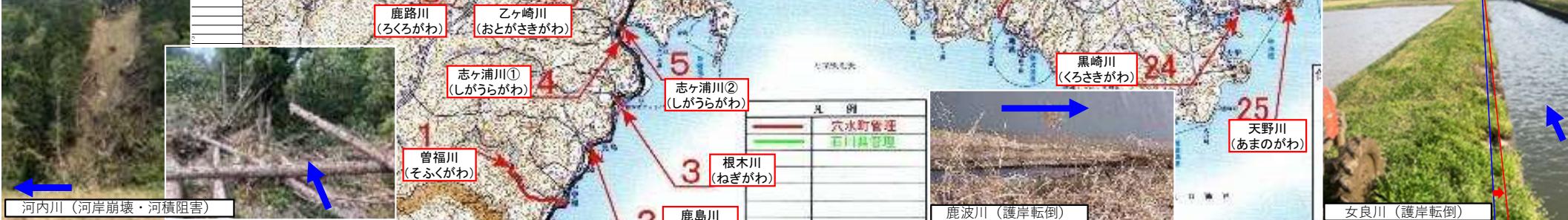
① **河川護岸の崩壊やクラック、たわみなどの明確に構造物の安定性が損なわれている被害**については、
洪水による被害拡大を防止するため、早期復旧が必要であることから、「簡素化」を適用して災害査定を受けるよう
申請する。なお、詳細調査・設計の費用については、査定時に申請する災害復旧費に含める(激甚指定済)

② **河川護岸の小規模なずれや目地の開き等の被害**についても、**構造物の安定性が損なわれている可能性が高く、**
詳細な調査・検討を要するものと考えられるが、早期復旧に着手するため、上記と同様に「簡素化」を適用する。

③ なお、小規模で点在する被害が多いことから、災害復旧の申請箇所について、一定規模の発注単位にてまとめて
申請するよう考えている。

**河川災査定決定額
5,888,790千円**

穴水町 河川災害概要



穴水町 橋梁災害概要

「橋長15m以上」6橋 【架替】

- 7 (大町川島線) 城山橋 (ジョウヤマバシ)
- 9 (城山線) 長谷部橋 (ハセベバシ)
- 13 (瑞原寺線) 東橋 (アズマバシ)
- 15 (白山線) 白山橋 (シラヤマバシ)
- 17 (瑞鳳線) 日詰大橋 (ヒツメオオハシ)
- 18 (梶線) 梶前橋 (カジマエバシ)

「橋長15m未満」3橋 【架替】

- 3 (鹿島線) 鹿島橋 (カシマバシ)
- 6 (志ヶ浦根木線) 志ヶ浦橋 (シガウラバシ)
- 18 (二子山線) 本神出橋 (ホンカミデバシ)

架替 N = 9橋

「橋長15m以上」4橋 【補修】

- 10 (新町2号線) 新町橋 (シンマチバシ)
- 11 (御蔵橋線) 御蔵橋 (オクラバシ)
- 14 (稻荷町線) 稲荷橋 (イナリバシ)
- 21 (北七海新道線) 長右エ門橋 (チョウエモンバシ)

「橋長15m未満」14橋 【補修】

- 9 (宇留地越の原線) 鹿路橋 (ロクロバシ)
- 12 (鹿波松ヶ丘線) 曽坂橋 (ソヤマサカバシ)
- 14 (宇留地越の原線) 二人渡橋 (フタリワタリバシ)
- 21 (大町海岸線) 鵜島橋 (ウジマバシ)
- 24 (河内上唐川線) 黒古橋 (クロコバシ)
- 25 (大門尻線) 大門尻橋 (ダイモンジリバシ)
- 31 (甲女良川線) 女良川橋 (メナゴバシ)
- 43 (古君駅前線) 古君橋 (フルキミバシ)
- 45 (七海大坪線) 宮下橋 (ミヤシタバシ)
- 48 (七海大坪線) 和田橋 (ワダバシ)
- 53 (曾山軍谷線) 軍谷橋 (グンダニバシ)
- 54 (竹太線) 竹原橋 (タケハラバシ)
- 57 (平野小又線) 滝尾橋 (タキオバシ)
- 66 (北七海新道線) 宮ノ平橋 (ミヤノヒラバシ)

橋梁災 査定決定額
3,527,715千円

補修 N = 18橋

大規模に被災し、詳細設計が必要である橋梁（白山橋）



- ・両側に増設された歩道橋の桁が横ズレ・橋脚が大きく割れて分離
- ・歩道橋の支承部は完全に逸脱
- ・歩道橋の橋台は大きなひび割れが生じている
- ・車道橋の桁も約10cmほどずれている。

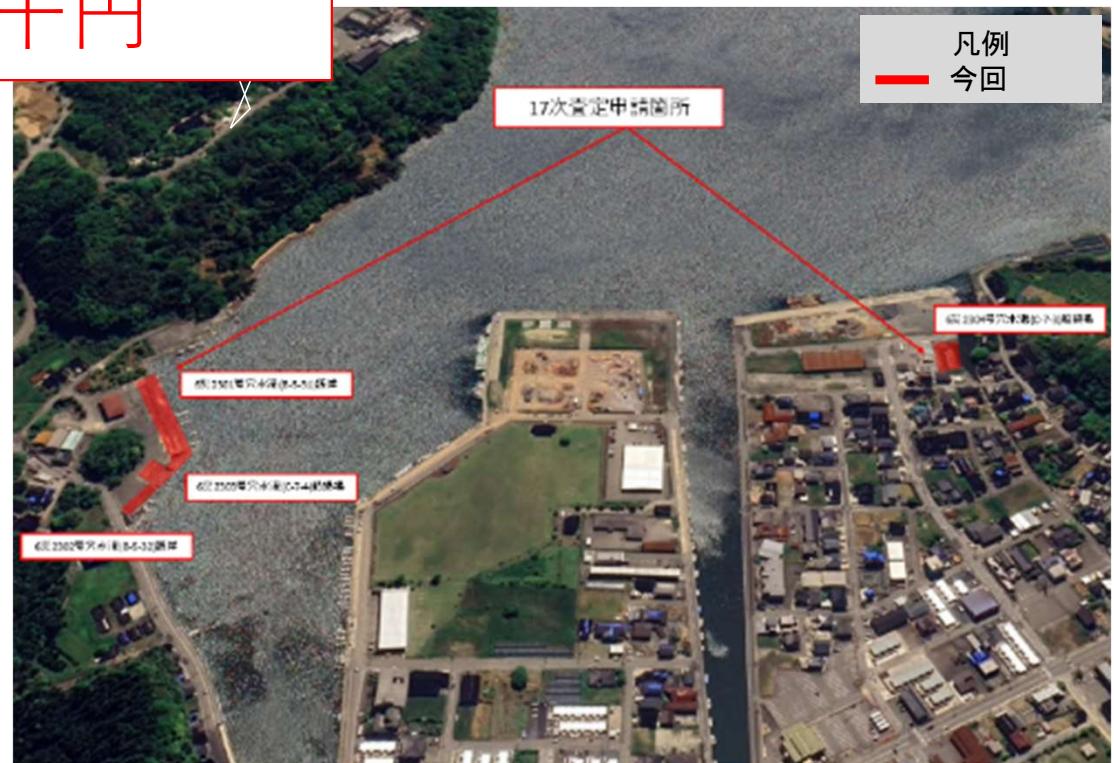
穴水町 港湾災害の概要（穴水港）

位置図

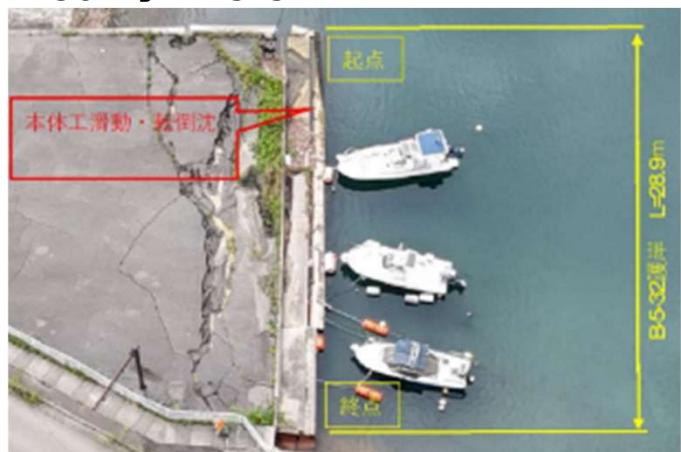


港湾災 査定決定額
737,374千円

2301号、2305号—B-5-31



2302号 B-5-32



2303号 C-7-4



2304号 C-7-3



穴水町 漁港災害の概要



岩車漁港海岸
被災施設 N=10件
C=460,965千円
岩車漁港
被災施設 N=8件
C=205,645千円

鹿波漁港海岸
被災施設 N=11件
C=954,943千円
鹿波漁港
被災施設 N=5件
C=174,084千円

曾良漁港海岸
被災施設 N=5件
C=435,608千円

宇加川漁港
被災施設 N=7件
C=30,907千円

新崎漁港
被災施設 N=7件
C=348,254千円

甲漁港海岸
被災施設 N=21件
C=873,218千円
甲漁港
被災施設 N=3件
C=19,646千円

前波漁港海岸
被災施設 N=6件
C=110,827千円
前波漁港
被災施設 N=6件
C=168,907千円

沖波漁港海岸
被災施設 N=17件
C=668,096千円
沖波漁港
被災施設 N=3件
C=96,470千円

漁港災 査定決定額
4,547,570千円

5 復旧に当たっての課題

穴水町 復旧に当たっての課題

復旧に当たっての課題

<復興プラン>

- ・町の優先復旧箇所の設定
⇒町としてどの地域から復旧・復興するのか、優先度や順序を整理したプランを持たないとどこも復旧・復興していないと言われてしまう恐れがある。
- ・災害復旧と復興計画（創造的復興）との不整合
⇒H19年にも地震災害があり、その際に創造的復興を掲げ、うまくいったため今回も同様にしたいとの考え方があることが原因で復旧が思うように進んでいない。今回の地震は前回規模をはるかに超えており、前回同様の創造的復興を考えるのは良いが、一方で現実問題として住民は住んでいた場所に戻れるかどうかを気にしており、災害復旧としてやるべきことをやった上で創造的復興を考えるのが筋である。災害復旧としてH19年の知見が生かされているとは言い難い。

<予算関係>

- ・災害予算の確実な確保
⇒委託及び工事の発注は、国庫負担金を受け入れてからの発注ではなく、一旦、町の予算にて発注・契約となることから、毎年度、確実に災害予算を確保しておく必要がある。また、毎年度、災害予算を確保しておくことで、素早い応急復旧工事（応急本工事を含む）の着手が可能となる。
- ・プロパー職員の災害事務（予算）担当の導入
⇒課長が予算管理している。主事は委託や工事の契約事務で手一杯。あやうく予算を超えて発注しそうになっている。（契約と精算表を合致させる作業を行っていない。）
- ・R6-7繰越予算が事故繰越（契繰）となる可能性がある。

穴水町 復旧に当たっての課題

復旧に当たっての課題

<査定及び設計変更協議>

・未調査区間（超大ロット申請）の整理

⇒表向きは災害査定が完了済となっているが、超簡易査定での決定のため未調査となっている箇所が92箇所ある。今後、その箇所を国に認めてもらうべく、現在、協議資料を作成中である。そのほとんどが道路の構造物災であることから超概算ではあるが50億ぐらい増となる見込みである。

⇒国（国交省防災課）と協議した際には、測量や設計を進めるよりも起終点協議のほうが先と言われたが、起終点協議後に測量及び設計を始めれば、大幅に遅れることになり、測量業者や設計業者の確保もできない。なにより、早期復旧を考えれば、多少、単独費の持ち出しになってでも早く進めるという気概や覚悟が必要である。

・被災直後写真の重要性

⇒起終点協議資料の作成にあたり、各箇所の被災直後写真を探すことに非常に苦労している。国のテックフォースの被災直後写真があるが、冬季のため雪で見えない部分も多く、災害申請を行う視点での写真撮影となっていない場合がある。加えて、1年後に被災現場を再撮影すると路面のクラックや構造物の欠け口に草が生えたり、落葉等で被災の傷が全くわからなくなっていたことから、河川路線ごとの整理とともに被災直後の写真撮影は非常に重要であると感じる。

穴水町 復旧に当たっての課題

復旧に当たっての課題

<委託（測量・設計・地質）>

- ・応急業務要請書・応諾書の整理

⇒石川県の測量・設計コンサルへの要請書は、業者名と担当者一覧があるだけで、どの箇所を依頼しているのか全くわからなかったため、要請書は箇所毎の依頼とすべきである。

⇒被災地では色々なところから応援・協力が来るが、初動の段階で、誰に、何を、どこまで、お願いするのかを明確にしておく必要がある。応急業務の要請書や応諾書も確実に取り交わす必要がある。時間の経過とともに、誰に何を頼んだのか、わからなくなることから協力業者の選定や整理は非常に重要である。

- ・復旧方針や復旧工法の決定に時間を要する

⇒簡易での査定決定のため復旧方針や復旧工法が固まっていないことが多い、どこまで査定決定工法を信用してよいかわからない。また、被災メカニズムの整理を行っていない箇所も多く、災害復旧事業の経験が少ない者（行政、コンサル問わず）は判断に迷う部分が多くある。加えて、協議設計（実施保留）箇所など被災メカニズム特定のために追加の地質調査が必要となる場合があり、それらを踏まえた上で詳細設計となることから、被災メカニズムの整理ができていない箇所の復旧工法の決定には時間を要することが多い。

⇒被災箇所が8漁港1港湾あるが、過去すべての漁港設計を実施してきた1社としか契約していない。1漁港、港湾ごとの設計のため、すべての設計完了はR7年度末～R8年度初旬までかかる可能性がある。

穴水町 復旧に当たっての課題

復旧に当たっての課題

<工事>

・早期復旧＆入札不調

⇒委託業者（特に橋梁）はその後の発注や工事のことを考えておらず、年度内での設計完了のスケジュール感である。漁港や港湾工事についても、作業船所有業者が1業者しかいないことから順番で発注する状況である。現在は不調不落はないが、今後、工事が集中すれば入札不調等が考えられる。

・50,000千円で議会案件

⇒手続きが煩雑となり、発注時期が限定される要因である。

⇒町は条例と地方自治法で、50,000千円を超える工事は議会の議決が必要であるが、議案上程時期が示されておらず、各担当が目指す発注時期にズレが生じる。

⇒臨時議会をすぐに招集できるから、それでいいという考え方もあるが、変更契約で50,000千円を超える（もしくは超えそうな）工事は議決が必要であることから、なおのこと議会上程時期は提示しておく必要がある。

・復興JV等の活用検討

⇒被災した路線丸ごと復興JV等の全国施工業者に任せることなど発注の工夫を今後、検討する必要がある。漁港や港湾工事についても、石川県内でも作業船所有業者が少ないとから、なるべく陸施工可能な設計にするとともに、全国から施工業者（復興JV等）を集めることも検討中。

<委託・工事共通>

・委託成果や工事管理の電子納品及び保管管理のシステムがない。

⇒今後、成功認定や会計検査などの完成検査に耐えられないと考える。

穴水町 復旧に当たっての課題

復旧に当たっての課題

<その他>

- ・専門家（特に地すべり）や地すべり専門コンサルとの協定締結
⇒協議設計となっている箇所の被災メカニズムの特定に日時を要していることから専門家や専門業者との協定締結が必要。国交省防災課との協議においても「まず地すべりか否かを学識者に評価してもらう必要がある。」と言われることから、改めて、気軽に相談できる学識者とのパイプが必要である。
- ・事前の台帳整備
⇒道路や橋梁、河川の区域がわからない。電柱移転や県管理河川との区域界がわからず占用協議や移転協議に時間がかかっている。法で定められた道路台帳や河川台帳レベルではなく、もっと簡易な手法での台帳整備が必要。
- ・地質調査ボーリングデータDBの活用
⇒通常事業などで行った地質調査データは国土地盤情報センターのDBに請負業者が格納しており、国や県や市町のデータを一元的に確認できる状況となっている。被災直後や簡易査定時は、急いで設計や地質状況の判定を行う必要があることから、このDBを日頃から活用する想定をしておく必要がある。
災害時に誰でも使えるプラットフォームを知っていれば、地すべりか否かを学識者に評価してもらう際にも、活用できる可能性がある。
- ・仮設宿舎受入れ体制の構築
⇒行政の応援職員の宿舎準備や生活用具の受援などの体制
委託業者＆工事業者への仮設宿舎の斡旋や調達

－災害復旧に対する心構え－

- 1 早期復旧の意識を持とう。
- 2 事前に施設台帳を整備しておこう。
- 3 有事に備え、毎年、災害予算を確保しておこう。
- 4 被災直後の写真を必ず撮影しよう。
- 5 被災写真撮影後、素早く応急復旧に着手しよう。
- 6 応援協定は各種協会など多方面と結んでおこう。
- 7 事前に優先順序を整理した復旧プランを持とう。

～町執行部と派遣職員の意見交換会～

R7.6.19実施



北は青森から南は鹿児島県徳之島まで
全国各地から52名が支援に来ています。
引き続き、能登_穴水への支援をお願い
します！！